

皆

さま、あけましておめでとうございます。

令和8年（2026年）の幕開けにあたり、市民の皆さまにおかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素から市政運営に對しまして、深いご理解と温かいご協力を賜っておりますことに、厚く御礼を申し上げますとともに、地域社会の発展にご尽力いただいている多くの関係者の皆さまにも、重ねて感謝を申し上げます。

昨年2月の市長選挙におきまして、市政を担わせていただくことになり、全精力を傾けて日々の職務にあたっております。本年も、皆さまからの負託にお応えするべく、「誰もが幸せに安心して暮らせる阿蘇市」の実現に向けて、市の将来を見据えながら邁進してまいります。

さて、昨年を振り返りますと、物価高騰が市民生活や地域経済に大きな影響を与え、「何でも値上がりしたなあ」と肌で感じた一年となりました。夏の暑さもこたえた方が多かったのではないでしょうか。本市におきましては、プレミアム商品券の発行を

はじめとした物価高騰対策や、無料の医療相談アプリ導入等による子育て支援、移住定住や空き家活用の取り組み、阿蘇の涼しさを生かした「合宿の里づくり」の推進、観光客誘致・満足度向上に向けた環境整備などに注力してまいりました。その結果、観光入込客数がコロナ禍前の水準を上回るなどして、確かな経済再生の兆しが見え始めております。

また、昨年8月の豪雨や11月の震度5弱の地震発生など、激甚化する自然災害への備え、少子高齢化の進展といった、構造的な課題への対応も待ったなしの状況にあります。本市は、これらの課題に正面から向き合い、市民の皆さまの安全・安心、幸せな暮らしを実現するために、行政の役割をしっかりと果たしてまいります。

新しい年、本市は将来都市像である「大自然とともにワクワクする未来へ」をキーワードに、さらなる飛躍を目指します。

まず、「あらゆる手段で歳入の増加を図り、歳出の選択と集中を行う」という当初の計画をさ

らに強力に推し進めます。基礎的な歳入を着実に確保し、新たな発想による積極的な財源確保に努め、住民福祉増進・地域経済好循環創出につなげていきます。また、市役所組織の改編や歳出の見直し等を行い、より効果的・効率的な行財政運営を図ってまいります。

次に、市民の生命と財産を守る「強靱なまちづくり」です。防災・減災対策においては、ハード・ソフト両面からの整備を引き続き進めます。市民一人ひとりの防災意識の向上と地域コミュニティの連携を強化するために、防災士の養成と自主防災組織の活動を支援し、災害に強い、誰もが安心して暮らせるまちの基盤を強化してまいります。

そして、令和8年度中には、待望の「滝室坂トンネル」が開通します。このトンネルは、未来につながる道路として、生活面や防災面だけでなく、経済物流や観光交流の活性化を促進する重要な役割を果たすものと期待しております。

市政は、行政のみで成り立つものではありません。市民の皆さま



阿蘇市長 松嶋 和子

一人ひとりのお声、熱意、そして地域活動への積極的なご参加こそが、まちの活力の源泉です。本年も、皆さまとの対話を大切に、市民の皆さまが「阿蘇市に住んで本当に良かった」と実感できる、温かく、活気に満ちたコミュニティを共に創り上げていきたいと願っております。

本市が直面する多くの課題は、市民の皆さまと心を一つにし、知恵を結集することで、必ずや乗り越えられると確信しております。

この一年が市民の皆さまにとりまして、実り多き、希望に満ちた素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます、年頭の挨拶といたします。

新年のごあいさつ

皆

さまにおかれましては、健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政ならびに市議会の活動に際し、深いご理解と力強いご支援を賜り、円滑な議会運営ができましたことに、心より感謝し厚くお礼を申し上げます。

さて、昨今の状況を見てみると、混々とする世界情勢や地震・風水害をはじめとする自然災害への不安が続く中、実質賃金は上がらず、エネルギーや円安による折からの物価高騰は、市民の皆さま方の生活に大きな不安を及ぼし続けています。また、一人ひとりの暮らしや働き方、価値観や市民ニーズの変化、デジタル化や世界的な脱炭素化に向けた動きは、複雑かつ多様化の一途をたどっています。

国内の経済動向においても、高市政権の下、新たな経済対策は打ち出されてはいるものの、賃

金上昇と物価上昇が共存、その景況感は都市部と地方とでは開きがあり、特に地方では、顕著な人口減少や働き手不足、産業構造の複雑化等々の課題が深刻化しています。

阿蘇市においても、例外ではなく、少子高齢化と人口減少、新たな施策実現に向けた財源確保などの課題も山積、如何に人口減少に歯止めをかけるか、人口減少を前提としたまちづくりをどのように進めていくかが大きな課題となっています。そのような中、老朽化したインフラ整備、教育や福祉の更なる充実など、市民の皆さま方が幸福感を実感できる「阿蘇市」の実現も求められています。

昨年、市では「大自然とともにワクワクする未来へ」を将来都市像として、今後8年間のまちづくりの基本となる第3次阿蘇市総合計画を策定、本年は次代のまちづくり、魅力あふれる阿蘇市

の創造に向け、重点施策の戦略的・計画的な推進をより効果的に行うため、組織機構の再編も行われます。

中九州横断道路の一部である滝室坂道路も確実に進捗をしておりますし、県においては阿蘇の地下水保全を目的に「九州の水を育む阿蘇の守り手基金」も創設されております。

私たち阿蘇市議会と致しまして、この種々様々な課題と現実を目を背けず、市民の皆さま方、誰ひとり取り残されることなく、子ども・若い世代の夢、高齢の方々の思いを地域全体で共有、そして応援すべく、バランスの取れたより豊かで住みよいまちづくりに向け、鋭意、取組みを進めてまいります。

そのためにも議会議員各々がその責務を自覚し、より一層の資質の向上と熟考、そして議論を重ねることが更に重要となっております。本市の限らない発展、



阿蘇市議会議長 菅 敏徳

明るい未来への歩みが確実なものとなるよう、誠心誠意、尽くしてまいります所存であります。

市政誕生21年目を迎える2026年の新年にあたり、市民の皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年、何事も「ウマ」く行く一年となりますことを願い、新年の挨拶とさせていただきます。